



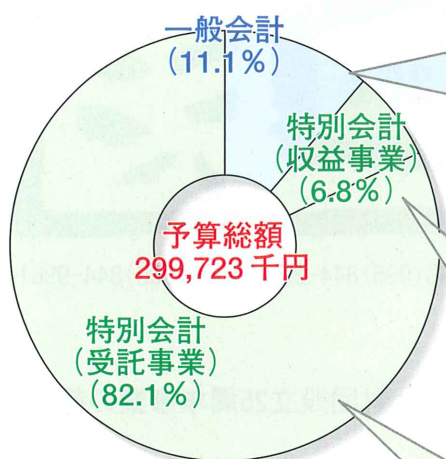
■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平成22年度の予算と事業計画
- 平和写真コンテスト表彰式と財団設立25周年事業の報告
- 継承部会の活動報告
- TOPICS



財団設立25周年を記念した平和写真コンテストで長崎市長賞（子どもの部）を受賞し、
 田上市長に表彰される谷口 光希さん 平成22年2月13日(土)長崎市平和会館ホールにて

平成22年度の予算と事業計画をお知らせします!



予算総額には、特別会計 (収益事業) から一般会計への繰入金 800 千円を含みます。

一般会計 33,352 千円 (前年比▲ 4,467 千円)

平和推進協会が実施するさまざまな平和関連の事業のための会計です。協会の基礎となる部分ですので、今回の誌面では、この一般会計を中心に説明しています。

特別会計 (収益事業) 20,400 千円 (前年比▲ 4,600 千円)

原爆資料館の売店で原爆や平和についての図書やグッズを販売する事業のための会計で、収益は一般会計に繰り入れてさまざまな事業に使っています。

特別会計 (受託事業) 245,971 千円 (前年比▲ 8,475 千円)

長崎市や国から委託された原爆資料館の窓口・受付業務や図書室の運営、追悼平和祈念館の運営事業のための会計で、祈念館が実施する各種事業の費用も賄います。

一般会計 (単位：千円)

収入 25周年記念事業費のために増加した収益事業からの繰入金を圧縮したことなどにより減収

科目	予算額	前年比
会費収入	4,516	▲ 135
補助金収入	27,511	▲ 25
基本財産収入	0	▲ 1
基本財産運用収入	78	48
寄付金収入	446	346
繰入金収入	800	▲ 4,700
雑収入	1	±0
合計	33,352	▲ 4,467

支出 25周年記念事業の終了のほか、各事業の支出を削減することなどにより減額

科目	予算額	前年比
発刊事業	1,737	▲ 258
啓発事業	1,212	▲ 186
調査研究事業	43	▲ 57
育成事業	4,832	▲ 708
推進対策費	325	▲ 125
事業費人件費	5,255	▲ 1,865
管理運営費	19,208	623
基本財産預金支出	0	▲ 1
固定資産取得支出	740	640
合計	33,352	※▲ 4,467

※前年度で完結し、科目から抹消した「25周年記念事業費」の皆減分(▲2,530千円)を含みます。

育成事業

部会活動

協会の会員が市民のみなさんとともに、4つの専門の部会（継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会）の下で、平和への意識を高めるための活動を行います。

平和案内人

高齢化している被爆者の体験を継承し、被爆建造物や慰霊碑、原爆資料館、追悼平和祈念館の案内を通じて多くの人に原爆や平和に対する理解を深めてもらうために「平和案内人」を育成し、原爆資料館に常駐して観光客を案内したり、長崎県内外の児童や生徒を対象にガイドとして派遣したりします。今年度は3年ぶりに第4期生を募集する計画です。

アジア青年平和交流事業

日本の若者とアジア諸国の若者がお互いの国の文化・歴史を学び、現地の人々との意見交換や交流を通して、相互理解を深め、平和への意識を高めます。



秋月グラント・平和事業への支援

協会設立に尽力した故・秋月辰一郎氏の名前を冠した「秋月グラント」では、被爆体験の継承や平和意識高揚を図る事業を実施する団体への助成を行います。

ほかにも協会の活動と趣旨を同じくする音楽会や講演会、シンポジウム、弁論大会などの活動への支援も行います。

推進対策

3つの委員会（広報委員会、事業推進委員会、財務・組織委員会）を開催し、各事業の調整を行います。また、これらの委員会や各事業の準備や運営、事務処理なども担います。

このほかの活動について

追悼平和祈念館の運営を通じて、協会の活動とかかわりの深い次のような事業を行います。

被爆体験講話映像制作 被爆体験講話を収録し、映像化して、後世の平和推進に役立てます。

被爆関連資料多言語化 収集した被爆体験記や被爆証言映像の翻訳や吹替映像の製作を行います。

海外原爆展 原爆のことを知る機会の少ない海外の人たちに向けて現地で原爆展を開催します。

発刊事業

機関誌の発行

会報「へいわ」（年4回）、「情報ボックス」（月1回）や年間の活動状況やデータをまとめた「平和のあゆみ」の発行を通じて、協会の取り組みの紹介や各種イベント、平和についての情報を提供します。

広報活動

協会を紹介するリーフレットを作成、配布して、活動内容を広く周知し、賛同していただける方には協会への加入をお願いします。

啓発活動

被爆体験講話・ピースネット

被爆の実相や平和の尊さを伝えるため、市内の小・中学生や修学旅行生を対象に、時には遠くの自治体などの招聘に応じて、「被爆体験講話」を実施しています。



東日本地区、県内離島、沖縄など来崎が難しい遠隔地の小・中学生には、追悼平和祈念館のインターネット会議システムを使った「ピースネット」を実施し、平和学習を行います。今年度は活動をより強化するため、追悼平和祈念館との連携を強める方針です。

市民のつどい・協会設立記念講演

10月の国連軍縮週を記念した長崎市と共催の「市民のつどい」や「協会設立記念講演」の開催など、老若男女問わず気軽に参加できるイベントを通じて平和のことを身近に考えてもらう機会を提供します。

調査研究事業

核兵器の削減などをテーマにした平和関連の会議やシンポジウムに出席し、情報の交換や収集、関係機関との協力を図ります。

財団設立25周年記念事業を振り返って

平成22年3月

25周年記念誌

昭和58年2月に任意団体として産声を上げた長崎平和推進協会は、翌59年4月に財団法人平和推進協会に改組し、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けたさまざまな事業に取り組んできました。

平成21年度は、財団設立から25年にあたることから、四半世紀の区切りとして昨年4月の記念式典を皮切りに1年間にわたって記念事業を実施してきましたが、今年3月の記念誌の完成で、一連の記念事業が完了しました。会員のみなさんをはじめとする多くの方々のご協力により、いずれの事業も十分な成果を得ることができました。

しかし、残念ながら、世界にはいまだに戦火の絶えない地域があり、協会の設立目的はまだ果たされていません。26年目を迎える協会は、これまでと変わらない目的に向けてまた新たに歩んでいきます。

昭和58年2月に任意団体として産声を上げた長崎平和推進協会は、翌59年4月に財団法人平和推進協会に改組し、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けたさまざまな事業に取り組んできました。

平成21年4月

記念式典・記念講演ほか

財団設立25周年を記念して、4月18日に原爆資料館ホールにて記念式典、市長記念講演のほか、「私の平和活動の原点」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

式典には、藤井副知事、田上長崎市長をはじめ、吉原長崎市議会議長、中田副議長、広島平和文化センターのステイブ・ブー・リーパー理事長、当協会の初代会長の本島等氏、現在顧問で元理事長の長瀧重信氏をはじめとするおよそ220名の方々が来場され、金子知事（副知事代読）、田上長崎市長からご祝辞をいただきました。式では、長年にわたり協会をご支援いただいた団体や個人に感謝状などを贈呈し、式の最後には、協会の設立に尽力された初代理事長である故秋月辰一郎氏への顕彰状の贈呈を行いました。

また、夕方の6時から長崎新聞

文化ホールで行われた記念レセプションにも多くの方に参加していただき、これからの核兵器廃絶への歩みについての想いを共有する会となりました。

平成21年6月

被爆体験継承シンポジウム

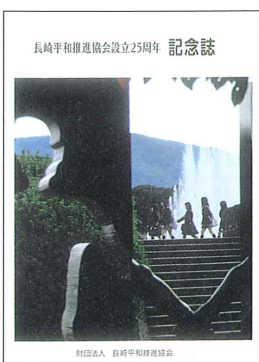
6月21日には、コーディネーターに田崎昇氏（元長崎市平和推進室長）を招き、「被爆体験の継承をどうするか」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

パネリストには、被爆体験の継承の最前線で活躍する継承部会員や平和案内人をはじめ、広島や沖縄で語り継ぐ活動をなさっている方々に出席いただき、会場の観客を交えて継承活動を担う人材の発掘やさまざまな年齢層に向けた伝え方など継承問題に関する幅広い話題について活発に意見が交わされました。

3月には、編集委員長である本田広報委員長をはじめ、多くの編集委員のみなさんの手により財団設立25周年の記念誌が発行されました。

その内容は、25周年記念事業の紹介のほか、協会の制度や組織図、役員など協会の基礎資料や日々の活動として行っている各種事業、4つの専門部会の紹介など多岐にわたっており、なかでも30ページにわたる「四半世紀の歩み」は、設立から現在までの協会の動きを年表形式でまとめた25年の歴史が凝縮されたもので、協会のデータベースとしても興味深いものとなっています。

この記念誌は、会員のみなさんにお送りしたほか、市内の学校や図書館、平和団体などにも贈呈しました。



完成した記念誌

平成21年5月～22年2月

平和写真コンテスト

「平和写真コンテスト」では、昨年の5月から11月にかけて、私の平和！をテーマに子どもから大人まで、プロ、アマチュアを問わず、幅広く作品の募集を行いました。その結果、一般の部102点、子どもの部435点もの作品の応募があり、その中から長崎市長賞など両部門合計24点の入賞作品を決定しました。

表彰式は、2月13日に長崎市平和会館ホールで田上長崎市長や吉原孝長崎市長、このコンテストの特別審査員で写真家の黒崎晴生氏をはじめとした来賓のみならず、皆さまをお迎えして執り行われ、各賞の受賞者に表彰状などを授与しました。

また、この表彰式に引き続き、毎年恒例の協会設立記念イベントとして「平和寄席」を開催し、人気テレビ番組「笑点」でおなじみの三遊亭好楽師匠、上方落語界で活躍されている林家染二師匠、林家花丸師匠が、洗練された語り口とその持ち前のユーモアで、会場を埋め尽くした約600名の観客を魅了しました。

子どもの部



「みんな笑顔」

長崎市長賞 谷口光希さん(形上小3年)



「ぼくたち、私たちの願い」

長崎市議会議長賞
虹が丘小5年1組



「空襲から身を守った防空頭巾」

長崎原爆資料館長賞
虹が丘小5年1組



「パースデーケーキ」

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館長賞
濱添紅緒さん
(形上小3年)



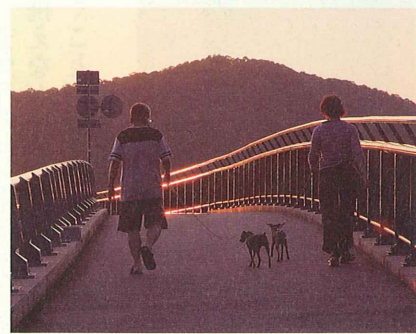
「視線の先にあるものは…」

財団法人長崎平和推進協会理事長賞
虹が丘小5年1組

佳作

虹が丘小5年1組、大野心平さん(長与町立長与南小5年)、高尾美琴(城山小6年)、田畑亮一さん(茂木中ひまわり)

一般の部



「トワイライト」

長崎市長賞 永田益来さん



「生きているマリアさま」

長崎市議会議長賞
山崎満喜子さん



「シャボン玉」

長崎原爆資料館長賞
川上正徳さん



「瞑想」

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館長賞
岡部優さん



「友情」

財団法人長崎平和推進協会理事長賞
田口修三さん

佳作

調仁美さん、小松賢二郎さん、田中重光さん、井上美千代さん、大橋由紀子さん、小川吾一さん、木永朱実さん

継承部会活動報告

被爆64年目を迎えた昨年の継承部会は、多数の新たな入会者に加え、その活動も非常に活発に行われました。

被爆体験講話活動

21年度の被爆体験講話の実施件数、聴講者数は、前年度の実績を大きく上回り、いずれも過去5年間で最多、5年間の平均と比べても10%以上の増を記録する驚異的な結果となりました。(左表参照)

年度	件数	人数
17年度	1,100	148,742
18年度	986	133,761
19年度	1,060	140,814
20年度	1,192	159,880
21年度	1,279	166,166
平均	1,123	149,872

被爆体験講話件数と受講者数の推移
(直近5年間)

新型コロナウイルスの流行で多くの修学旅行が延期や中止になっ

た影響から21年度の前爆資料館の入館者数が1月までの実績で、過去5年間のうち最少を記録する状況に見舞われているようすとは対照的な結果となっています。

このことは、被爆体験講話の活動がこれまで以上に広く認知され、また、原爆のこと、平和のことを学ぶ上で欠かせない重要なものとしてより多くの人に受け止められるようになった結果であると思われ

れます。このほかにも、21年度から追悼平和祈念館が被爆体験講話を収録する事業を始めました。これは、貴重な講話を映像として未来に残そうという事業で、さっそく2名の方の講話を収録してDVDを制作しました。新年度も協会と継承部会、追悼平和祈念館が引き続き手を携えながらさらに強く推進していくことが望まれます。



松尾幸子さんの講話の収録
(原爆資料館ホールにて)

班別活動

『ピーストーク研修班』では、8月に「ピーストークきみたちに つたえたい 9 平和への道しるべ」を発刊しました。この本は副題を「恒久平和と核兵器のない世界をみざす憲法・条約・決議・宣言など」と銘打って平和に関する法律や宣言など難しい文章をQ&A(質問と回答)形式や平易な説明文でわかりやすく解説をしています。



(写真右) ピーストーク9 平和への道しるべ
(写真左) 原爆資料館 平和学習の手引き
どちらも国立国会図書館に献本しました。原爆資料館の売店で入手可能です。

を発刊しました。これは、平和学習で訪れる原爆資料館や被爆遺構などを小学生向けにやさしく解説したもので、10年以上前に刊行されたものを増補したものです。

「原爆遺跡・慰霊碑巡り班」は、10月に油木町を中心とした地域の被爆遺構などを巡りました。部会員の吉田勝二さんや下平作江さん、池田早苗さん、奥村アヤ子さんたちの被爆当時の状況を改めて認識し、貴重な経験となりました。

「交流班」によるピースネットでは、北海道の小学生などと追悼平和祈念館のインターネット回線を通じて被爆体験講話や平和学習を行い、遠くに住む小学生に原爆について勉強してもらう機会を提供しました。また、21年度は、追悼平和祈念館と長崎市内の小学校、山形市内の小学校をそれぞれ同時に接続して、児童たち同士が直接意見を交わすことができる3点接続のピースネットを試みました。今年度は、追悼平和祈念館との協力体制を強化した取り組みを行う計画です。

「資料作成支援班」、「慰霊碑巡り研修班」、「市民のつどい班」、「広報班」の各班もそれぞれに独自の目的をもって活動をしました。

「児童図書班」は、「長崎原爆資料館資料館見学・被爆地めぐり平和学習の手引き書増補版」

昨年継承部会に新しく入会された方のうち3名の部会員の方から被爆体験講話などの継承活動に参加した感想をお寄せいただきましたので、ご紹介します。

継承部会一年を振り返って

中川 知昭

私は『さるく』や『平和案内人』のガイドをして『平和の泉』の山口幸子さん『水が飲みたくて・・・』の詩碑の前で、「この私も被爆の時は、同じ9歳だったんだよ」とつけ加えると、聞いていた子供達が、急に真剣な顔になるのを度々経験して、自分の被爆体験を語る事が時を越えてリアルに訴えるのだな、と感じていました。

その頃、継承部会に入会を勧められて、この一年間自分の眼や耳や肌で感じた体験を小学生から高校生に話しています。旅行を終えて帰ったこともたちから過分の感謝と激励のお手紙を頂き、身の引き締まる思いと同時に役に立ってよかった、また話をしようと思っ感じしております。話の中で「被爆の時は国民学校の三年生でしたが、この六十有余年間、私よりも先輩

の人達が『原爆はもう私たちが充分だ』と原爆の悲惨さを訴え続けてこられた事が、アメリカの大統領の核を無くそうという気運の高まりになったと思います」と伝え、話の最後に私は「人間の未来のためには戦争のない、核のない平和な世界をお互い、作るよう努力しましょう」と結んでいます。

継承部会に加入して

深堀 讓治

継承部会の活動に参加することで、少しでも原爆被爆の実態を後世に伝えることが出来れば幸せだと思います、入会しました。

六十有余年経った今日、私自身当時の体験や思いを、はつきりと思いつ事に、自信がなくなってきたことなのか、他からの見聞が自分のこととして思い違いをしていないかなど、常に考えさせられています。如何に正確な伝達が出るかが、一番大切だと思っています。

また、私共が子供の頃の国家、社会環境が、現在と余りにも大き

な違いがありますので、お話をする時にどれ程受け入れ理解していただけるものかと、気を使っています。

しかしながら皆さんは事前の勉強や準備をされていて、熱心に話を聴かれ質問も的確にされています。それは戦争のない平和な社会が将来実現することを真剣に願って、努力をされているのを感じることが出来、改めて私自身の平和実現への努力が、求められているように感じております。よろしくお願いいたします。

継承部会に入会して

早崎猪之助

私は継承部会に入会して早、一年となります。以前から被爆体験講話活動をされてこられた先輩の方々に比べるとかけ出しですが、何とか追いつこうと努力しております。いつも思うのはベテランの講話者の方々が共に老化のために体力が衰えていく様子です。声を出すのも体力なので日頃見憶えた方が一人また一人と弱られるのが悲しいのです。

私は二年半前より10時頃から16時頃まで平和公園の原爆殉難者の碑の水供養をしております。原爆で亡くなった同僚等の別れ水の話が聞いて涙して下さる方も多いためです。おおかたは当時13歳より18歳までの若者が国のために世を去ったことを偲びつつ献水をしてくださる場となっております。

もう一つの心ざびしいことはこの場所に長崎の小中学生が訪れることはあまりなく原爆のことすら知らない親、祖父母も来ないことです。県外のこともばっかりで、長崎の学校はもはや八月九日の一日の学習で終わるのかと思います。碑の前で空を眺め、一言の苦言もなく犬死した若者たちの心中を慮る時に、生き残った自分は、今の平和は彼らの犠牲の上にあることを伝えなければいけないと思いません。私は残りの人生を「長崎の鐘・殉難者の碑」の前で原爆の恐ろしさを伝えるとともに、日本各地から長崎を訪れる修学旅行生に一人でも多く被爆の実相を聴いてもらいたいと思います。

自分を導いてくれた、病で入院中の諸先輩方の一日も早いご快復を心から祈るばかりです。

碑めぐりや戦時食が貢献

国内外の NGO と強固な連携を図り、今年5月の NPT 再検討会議に向けて、核兵器廃絶の国際世論を高めるため、2月6日から3日間にわたり「第4回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」が開催されました。協会も主催者である核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会の一員として集会に参加、全体会議や分科会では、活発な意見が交わされました。

これにあわせて、平和案内人が自主企画として碑巡りを実施したほか、市民のつどいでご協力いただいている県地域婦人連合会が戦時食コーナーを設置するなど、集会を盛り上げ、参加者のみなさんからたいへん好評をいただきました。

健康講話、新年度も開講

昨年の6月に開講した平成21年度の「被爆者健康講話」(全10回)が3月18日に終了しました。

受講者は、毎回身近な問題を取り上げた分かりやすい講座で、生活習慣の改善や病気の予防などについて大いに学んでいたようです。

新年度も長崎大学大学院医歯薬学総合研究科にご協力いただき、6月から開講する予定です。

講座内容や日程などは決まり次第、祈念館のホームページや協会の発行する「情報ボックス」、「会報『へいわ』」、市の広報誌でご案内しますので、お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。

おしゃべり会の報告

3月1日、原爆資料館平和学習室などで継承部会と平和案内人の意見交換を目的とした「おしゃべり会」が開催されました。



継承部会員20名と平和案内人23名が参加し、7班に分かれて被爆体験講話やガイドの活動を通して感じたことや考えたことなどについて、それぞれが話し合いました。

話題は今後の継承活動にまで及び、これからもお互いに交流を深めていくことを確認しました。

次回はオランダで開催

追悼平和祈念館では、被爆60周年を迎えた平成17年度から毎年海外の都市で原爆展を開催しています。被爆65周年を迎える平成22年度は、6月からオランダのオーフェルローンのリバーティ・パークで開催することが正式に決定しました。

オーフェルローンは、ドイツとの国境近くに位置し、第2次世界大戦における連合軍とドイツ軍との激戦地として有名な場所です。



会員数報告

- ◎維持会員 1,239名
 - ◎賛助会員 172名
 - ◎学生会員 14名
 - ◎臨時会員 10名
- 平成22年3月17日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎広島県相互扶助会 五万円 (敬称略)

会員のみなさまへ

協会の活動は、みなさまから頂いた会費によって支えられています。まもなく新年度の会費の払込取扱票をお送りしますので、最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

ご報告

3月16日、24日の評議員会、理事会で22年度予算と事業計画が承認されました。おまな内容については本誌2、3ページの記事をご覧ください。